
雨。

ひらま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨。

【Nコード】

N4224BA

【作者名】

ひらま

【あらすじ】

「雨」を自分から浴びたいと思う人はそうそういないと思います。私も、自分から浴びに行こうとは思いません。でも、こうやって日々を生きていると、雨を浴びざるを得ない瞬間には誰しも出くわしてしまうもので。そういった場面で、雨に負けずにいられるかというのは、私の人生の中でも最大級の難問だったりするのです。

ふりしきる雨。
つめたい雨。
粒の大きな雨。

雨が私の身体にぶち当たる。
時にしつこく、時に激しく。
私をいやらしく責めたてる。

痛い、痛い、痛い！
この責めはいつまで続くのだろう。
お願いだからもうやめて。

不意に雨が止む。
見上げると、そこには傘があり。
傘が、雨から私を守ってくれている。

雨がなくなった。
それだけで、心の奥底から温かい何か
が溢れてきたような気がする。
る。

これ以上、痛い思いはしたくない。

違う。
そうじゃない。
私は雨にうたれないといけないんだ。

雨にうたれて、こごえて、苦しんで。
あるがままを受け止めなくてはいけない。

あの人がそうであったように、私も。

雨が止む気配はない。

思い切って傘から出てみると。

もう一度、つめたい雨の存在を感じるようになった。

肩に、腕に、手のひらに。

脚に、胸に、首筋に。

頭のとっぺんからつま先まで。

雨足は強くなる一方。

粒たちが全身に突き刺さる。

身体中に雨音が響く。

痛い、痛い、痛い、痛い！

もう、どうなっても仕方がない。

たとえ死んでしまっても構わない。

この雨は、私への罰なのだから。

何もできなかつた私への、

手を伸ばさなかつた私への、

天から届いた、私への、

罰なのだ。

(後書き)

お読みいただきましてありがとうございます。
初投稿で、思いつきだけで突っ走ると……こうなります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4224ba/>

雨。

2012年1月11日03時45分発行